

日蓮聖人門連だより

発行
日蓮聖人門下連合会
東京都大田区池上1-32-15
〒146 電話(03)751-7181

昭和62年8月1日
第4号

比叡山開創一二〇〇年・報恩大法要

堂内にお題目の声満つ

日蓮聖人門下全力を結集して奉行!

なんと素晴らしいことか、日蓮聖人門下が結集するということは。本年五月二十三日、時あたかも開創千二百年を迎えた比叡山根本中堂に門下各派の維新千名が集い大法要がいとなまれた。

この法要は当初日蓮宗に対し叡山当局より要請が寄せられたが、日蓮宗はこれを門下各教団に呼びかけ、日蓮聖人門下連合会の主催として実現した。すなわち、叡山開祖伝教大師への御報恩の誠を、「伝教大師に還れ」と絶叫された日蓮聖人の門下が異体同心して捧げた。



根本中堂内陣に奉揚された大曼茶羅本尊

根本中堂に湧き上った南無妙法蓮華經の響き

それにしても、雨が強い。風もある。前夜投宿した市内のホテルで目を覚まし、カーテンを開けるや、激しい風雨に減入ってしまった。

に煙り、視界は狭い。集合予定の午前十時に少し早い九時過ぎ、頂上に着く。駐車場から中堂に向う参道に下げられた横断幕も風雨に濡れ、そして揺れている。風雨は一向に止む様子がない。午前十時、集合時間に遅れることなく、大型バスが次々に到着、遠近の信者の方々が、それぞれ所属団体のリーダー僧にともなわれ、行儀よく根本中堂へ導かれる。海の潮が満ちるように、徐々に堂内は人で埋めつくされて行く。いつの間にか、満堂立錫の余地がない混みよう、私も自分の座すべき所を確保し、ほっとした。

と同時に、誰れとはなく、自然発生のようにならぬ妙法蓮華經の唱題が堂内に響きわたる。本宗関係の法要ではよくお目にかかるスタイルだ。ここ根本中堂に、こうしたスタイルが現出したことは、開闢以来未曾有のことだ。少時が経ち、時に十時三十分、式衆第一列が書院を出発、つづいて第二列出発。第一列には、一般僧侶、京都門連関係者、そして門連相談役、門連理事、その後各宗管長、本山貫首各聖がつづかれる。第二列には副導師をつとめる門下各派代表(陣門流、本門流、京都門連、日本山妙法寺、本門佛立宗、本門法華宗、真門流、本門佛立宗、顕本法華宗、日蓮宗、国柱会は第一列に)、そして今日の晴れの式典の大導師をつとめる金子日威猥下がつづかれた。



堂内を埋めつくした門下連合会の清衆

私は、この行列を堂の廻廊にいて眺めていた。濟々肅々と進む。雨に霞みよく見えない。予備知識として行列の全貌を把握していたにすぎないが、しかし、日蓮聖人の門下がこぞって参加しているという眼前の姿だけは理解できる。それでよいのだ。

この法要にあたり、特筆大書して後世に伝え残さなければならぬことがある。もちろん、日蓮聖人門下連合会により伝教大師への報恩法要が行われたことに尽きるのであるが、今ひとつ、忘れてならないことがある。

日蓮聖人奠定大曼茶羅奉揚の歴史的意義

それは、根本中堂の内陣に奉揚された十界勧請の大曼茶羅本尊のことだ。その大曼茶羅本尊の両脇に、左方には伝教大師像、右方に日蓮聖人像、この勧請様式のもとに、今日の大法要が奉行せられたことである。比叡山ご当局的英断もあつたであろうが、ともかくにも天台宗総本山の本堂に、日蓮聖人奠定の曼茶羅を掲げ得たこのゆるぎなき事実は、後世必ず歴史的快挙として語りつがれるに相違ない。

〒146
東京都大田区池上 3-16-9
日蓮宗新聞社
03-755-5271

[床の間などへの奉安用に] 桐箱を用意しております

別売 1万円

妙法蓮華經一部八巻を ご奉安下さい!

頒価 4万円 経本の体裁：タテ22センチ×ヨコ8.5センチ(1巻)

法華經を奉ずる全てのご宗派 ご寺院、お檀家の皆様へ!

経本の表装は、緋金と茶金の二種類を用意しています。いずれかをご指定頂き、数量を明記の上官製ハガキでお申し込み下さい。申し込みに応じて順次頒布させて頂きます。なお、導師席・緋金、出座席・茶金のような表装の組み合わせも出来ます。もちろん全席緋金、同茶金でも結構です。―特漉コウゾ紙・特装金欄使用―

シリーズ 門下御本山巡り 3

法華宗(陣門流)総本山本成寺

日朗聖人から三箇の重宝を授けられた日印聖人が開かれ中興の祖日陣聖人布教の本拠本成寺を訪れる。



法華宗(陣門流)総本山本成寺

新潟県三条市西本成寺一丁目二〇番 千九百五十五 電話〇二五六三三三三〇〇〇八

○上越新幹線三条駅より4キロタウシ15分
○信越線JR三条駅より4キロタウシ15分
○信越線JR三条駅より1キロ徒歩15分
○関越高速道三条インターより4キロ車15分

日印聖人により開かる

法華宗陣門流総本山本成寺は、朗門九鳳の御一人日印聖人が、永仁五年(一二九七)に開かれた。聖人は文永元年(一二六四)越後寺泊に誕生され、文永八年(一二七一)、宗祖の佐渡配流の途次、寺泊の宿にて知遇を蒙り、摩訶一鷹の号を授けられた。

のち越後石瀬天台宗青龍寺智観法橋の弟子となり、天台教学の研鑽に励み日印聖人の名は広く知れ渡った。永仁二年(一二九四)鎌倉に遊学、日朗聖人の門に入り、宗祖の教学の奥義を究められ、摩訶一阿闍梨日印の称号を授けられた。永仁五年(一二九七)日印聖人は、生国越後に宗祖の教えを弘めようと決意され、白牛に乗って、鎌倉から越後に向日立った。

旅立ちに際し、この牛が跪いた所を霊地として、霊場を建立しようと発願された。牛の鞍に経典を積み誦誦しながら、山や川を越え旅を続けた。越後の国、蒲原郡大森莊薄曾称(す、きそね)村にさしかかると、牛が跪つき、牛の伏した跡から、清水が湧き青蓮華が生じたのを眼のあたりにして、ここが念願の霊地であると、庵室を設け、布教の礎とされた。

聖人の高德を慕い、広大な土地と一字を建立して寄進した。青蓮華寺と称した。

翌永仁六年四月八日、浄明夫人が寄進された仏師肥前法橋の手になる一尊四士の御本尊の造立供養が行われた。この御尊像は、門下で最も古く、今尚客殿に尊重され崇められている。正和二年(一一三三)師日朗聖人を初祖に請待し、山門の称号を請われた。日朗聖人は、その志を嘉して、長久山宝塔院本成寺と命名された。

鎌倉幕府は、日蓮門徒を放逐すべく、諸宗の碩学と日蓮の徒を問答対決させ追放を企てていた。鎌倉の日蓮門徒の代表日朗聖人は、七十四歳の高齢のため、日印聖人を越後より召され、問答にあたらしめた。文保二年(一一三二)十二月二十日、十宗坊と問答し、元永元年(一一三九)には鎌倉幕府執権北条高時が、八月二十三日使者をもって、日印聖人に法義を問うたことからはじまり九月十日迄、何度か出仕して、意とする所を殿中に言上している。特に禪、律、真言、念仏などの諸宗との宗論での日印聖人の活躍は見事であった。

諸宗兼学の智者、伊羅護律師道目等の学匠列座の中で、法華経と諸経の優劣、真偽につき対論し、数刻に及んだ。日印聖人は、道目を論破し、道目は問答の中でことごとく口を閉ざすという状態であった。諸宗無得道、法華最勝の論拠を述べられ、居ながら人々をして顔色なからしめた。

日朗聖人は、よろこばれ、宗祖から授けられた三箇の重宝を日印聖人に与えられ、三大秘法の正嫡と定められた。翌元永二年(一一三二)正月、日朗聖人示寂されると、鎌倉に大光山本勝寺を建立し、三箇の重宝を奉持して、本成寺に移り、弘法の根拠地とした。

嘉暦二年(一一三二)本成寺置文を認められ、本成寺が本門三大秘法の根本道場であり、門徒道俗、諸国貴賤は先師の御遺法の旨を、ひとえに守り、本成寺を門下の棟梁とすべき事を定められた。

日陣聖人と本迹勝劣論

当門流の祖、日陣聖人は中興の祖と仰ぎ、越後瀬波の莊、荒川郷にお生れになり、九歳の折、本成寺代官日龍師に師事剃髮し、門一鷹と称し、長じて円光坊日陣と号した。

十八歳の時上洛、本園寺日静師の学室に入られ、天台の深義と日蓮教学の奥旨を熱心に究められた。三十一歳の時、日静師示寂に遭われ、本成寺を付され、同門の日伝師は本園寺を付された。

日陣聖人は弘教と弟子の育成に努められた。当時本成寺の境内に坊舎三十余、学寮百余、そこに学ぶ僧侶は五百人を超えていた。日陣聖人は近隣を始め、東北、関東、東海の各地を巡化教線を拡張された。本成寺と本園寺、日陣、日伝両師の關係は「本成・本園の両師は水魚伝陣二師は雲雨の如し」と言われていたが、それぞれに付されて、二十年を経た元永四年(一一三九)日陣聖人五十九歳、日伝師五十六歳の年、日陣聖人上洛、本園寺にて説法して本迹勝劣論を展開し、天台宗の教えが正統視され本迹の別が曖昧になれる氣運に對し、これを覺醒せしめ、宗祖の本迹二門の別を顕示し、正しい本門の信仰を確立せんとされた。

日伝師は、本迹一致論を展開し、日陣聖人を論難した。八年間に亘る論争の末、元永十一年(一一四〇)日伝師は、五十五箇条の難勢を日陣聖人に送った。これを機として、かつての同門の日伝師と永訣別するに至った日陣聖人は、本迹勝劣の教義こそ、宗祖日蓮大聖人の本懐であるとして、「五十五箇条答文」「本迹同異決」「撰要略記」撰要見聞」などを著し、その弘通に力を注いだ。

日陣聖人は京都で本迹勝劣の教義の弘通をはかり、元永十三年(一一四〇)四月、四条堀川油小路に一字を建立、帝都の拠点とした。光了山本禅寺である。

国家安泰の勅願寺

爾来、法灯相續いて、九世日覺聖人は、後奈良天皇の爲に宮中で法華経を講じて、大僧正に任ぜられ、本成寺は国家安泰の勅願寺と定められ、以来朝恩深く、又上杉、徳川、溝口



本成寺の山門

特に將軍徳川家光より、慶安元年(一六四八)七月十七日、寺領三百石の御朱印状が下賜された。

時勢の変遷と共に、寺観も変化した。五世日頭師の代には、二十五間四面の本堂となり、根本道場に相応しい大伽藍となった。世運の移り変りにより、兵火等のため数回、灰塵に帰した。明治二十六年三月、塔頭より出火、飛火一夕にして本堂、客殿、方丈等主要な堂宇を焼失した。幸い宝物等は難を免れたがその再建に二十余年を要し、十八間四面、総檼造りの大本堂が再建された。

次々焼失前以上の堂塔が建立され、その堂々たる七堂伽藍の美しさは、十ヶ院の塔頭と広い境内と相俟って今尚稀に見る巨刹である。

宝物と年間行事

当山には、宗祖、朗、印、陣の御真筆の御曼荼羅、御消息類、「本成寺置文」「本尊建立供養日記」、客殿の「一尊四士の尊像」等の宗宝約百点、天下三双と称される小栗宗丹の屏風を始め三百点の宝物を格護している。

年間行事は、恒例法要として、元朝の年頭祈願会に始まり、除夜の鐘送、三十回の法要を営む。中でも各地より団参で賑うのは五月の祠堂法要と宗祖の御会式である。御会式のお逮夜には、当山独自の声明が厳肅に修される。五年に一度、千部大法要が五月頃執り行われる。

特に当山の節分は近年、全国的に有名となり、日本三大鬼おどりと言われ、赤青黄等五色の鬼が銅鑼と法螺貝、太鼓に合せ大暴れして踊り、歳男歳女の豆つぶで退散する。宗派を問わず大勢の参詣で賑い、当地名物の行事となっている。

法華宗宗定・総振かな付 妙法蓮華経 全一卷

昭和六十二年二月

待望久しかった法華

経読誦法の決定版が

法華経読法委員会よ

り刊行されました。

勤行練経に一人一冊。

篤信の檀信徒各ご家

庭にも、法華経の信

を深め正しく読むた

めに必備の經典です。

◆編纂 法華経読法委員会/編集 法華宗教学部

◆体裁 A5判(二二cm×一六cm)五三六頁

◆上製本函入り

◆中性紙使用(永久保存可能)

◆頒布価格 八〇〇〇円

◆ご希望の方は、

発行 法華宗(陣門流)宗務院

頒布取扱店 春 蕨 堂

〒144 東京都大田区仲六郷一―九一―二

TEL 〇三―七三―四一四六五

四 まで、お申し込み下さい。

総本山千部大法要

自昭和六十二年五月廿一日 至昭和六十二年五月廿五日

御歴代法要 世界平和祈願 日月牌回向

納骨寂光殿法要 永代祠堂法要 戦没者追悼法要

米寿表彰 納経法要 入信授戒

法要時間 午前五時半 午前十一時 午後八時(唱題行)

御親修 七十七世 荒井日幹現下 八十世 猪熊日祥現下

御開帳 三箇重宝 置文 門下最古一尊四士御像

輓延長応寺什宝

法華経繪曼荼羅八巻

〔問合せ〕 詳細は本成寺寺務所執事迄

新潟県三条市西本成寺一―二〇番 電話 〇二五六三(三三)〇〇〇八



暑中御見舞

昭和六十二年盛夏



日蓮宗宗務院

管長	金子 日威	教務部長	米田 淳雄
宗務総長	長瀬 貫公	護法伝道部長	山本 龍雄
宗務副総長	加藤 海晃	現代宗教研究所長	長谷川正徳
総合企画部長	富田 義董	参	豊田 通澄
庶務部長	神部 鍊紳	参	岡田 法順
財務部長	浅井 玄裕	日蓮宗新聞社社長	豊田 英世

〒146 東京都大田区池上一―三二―一五
電話〇三二七五二(七一八一)代

法華宗(本門流)宗務院

管長	赤田 日崇
宗務総長	松井 孝純
教学部長	古田 日穩
教化部長	渡辺 修翁
財務部長	中村 宏龍

〒170 東京都豊島区北大塚一―二六―四
電話〇三二九一〇(四七五五)

顕本法華宗宗務院

管長	吉田 日康
宗務総長	河野 時中
宗務次長	山田 信正
財務部長	飯澤 道宣
布教部長	浜田 顕昭
教務部長	平田 浄應
社会部長	因幡 信篤
庶務部長	朝倉 俊幸

〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話〇七五(七九二)七一七一

法華宗(陣門流)宗務院

管長	野口 日騰
宗務総長	鈴木 昭吾
総務部長	牧野 琢成
教学部長	土屋 善敬
財務部長	田辺 信治
教化部長	都築 哲信
宗務参事	星川 恒雄

〒170 東京都豊島区巢鴨五―三五―六
電話〇三(九一八)七二九〇

本門佛立宗宗務本庁

講有	梶本 日裔
講尊	小山 日幹
宗務総長	長谷川 日序
宗務副総長	高須 日薫
宗務副総長	大谷 日薫
宗務副総長	宗務本庁役員一同

〒602 京都市上京区御通一条上ル東堅町二〇番地
電話〇七五(四六一)一一六六(代)
FAX 〇七五(四六四)五五九九

日蓮本宗宗務院

管長	嘉儀 日有
閑居	原 日認
宗務総長	住友 顕一
法務部長	今村 要道
總務部長	丹治 義順
教学部長	今村 要道
財務部長	丹治 義順

〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話〇七五(七七二)三三三九〇

法華宗(真門流)宗務庁

管長	林 日圓	財務部長	小西 法明
宗務総長	藤井 文英	参	吉田 勝秀
宗務副総長	長鎌 泰信	参	上田 浩岳
總務部長	吉田 研宏	教学主事	岩崎 峻暉
教学部長	蓑輪 溪玉	教化主事	笹木 研秀
教化部長	田中 寛康	財務主事	小島 玄城
社会部長			

〒602 京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町
電話〇七五(四四二)五七六二

本門法華宗宗務院

管長	永井 日揮
宗務総長	吉村 信尚
宗務副総長	高辺 誠亮
宗務副総長	信隆 允忠
財務部長	山下 通雄
教務部長	飯田 信栄
庶務部長	藤井 宏長

〒602 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺
電話〇七五(四五二)三三二七

国柱会

宗教法人	会长	田中 香浦	
	理事長	加倉井 清信	
	副理事長	中平 千三郎	
国柱会本部・妙宗大靈廟			
講師	大橋富士子	必武館副館長	家田 仙次
講師	大屋 敬吉	会計部長	大屋 統子
講師	大橋 邦正	組織部長	木村 司
講師	長井 君夫	総務部長	長瀧 光雄
講師	関口 宏	庶務部長	江口 和敏
教務部長	秋場 善彌		

〒132 東京都江戸川区一之江六一―一九―一八
電話〇三(六五〇)七一―(代)

日本山妙法寺

首座 上野 行量

〒542 大阪市南区南船場一―三十一―一
電話〇六(二六一)三二二六

京都日蓮聖人門下連合会

会长	冲 日亨
副会长	赤田 日崇
理事長	藤田 尚慈
副理事長	岡沢 海宣

〒600 京都府京都市下京区中堂寺西寺町一
勝光寺
電話〇七五(八一)三二二九五



舞見御中

昭和62年盛夏

(順不同)

<p>法華宗(陣門流)総本山 本成寺</p> <p>〒955 新潟県三条市西本成寺一丁目二〇 電話 〇二五六(三三)〇〇〇八</p> <p>賞 首 野口日騰 執事 長 真保行宣 執事 笹原壯一 執事 西山英仁 執事 平井良光 執事 佐古弘文</p>	<p>顕本法華宗総本山 妙満寺</p> <p>〒606 京都府京都市岩倉幡枝町九一 電話 〇七五(七九)七二七一</p> <p>賞 首 吉田日康 総務 吉永正晴 執事 平田浄應 執事 土持栄孝 執事 三坂岳應 執事 津村乗信</p>	<p>日蓮宗大本山 池上本門寺</p> <p>〒146 東京都大田区池上一丁目一一 電話 〇三七五(二二)三三一一</p> <p>賞 首 金子日威</p>	<p>日蓮宗総本山 身延山久遠寺</p> <p>〒409-25 山梨県南巨摩郡身延町身延 電話 〇五五六(六二)一〇一一</p> <p>法主 岩間日勇 総務 望月一靖 役員 一同</p>
<p>本門佛立宗本山 宥清寺</p> <p>〒602 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五一一 電話 〇七五(四六)三二四六 二一〇(代) FAX 〇七五(四六)三二四六 五一一</p> <p>住持 十九世 梶本日裔 事務局長 小倉徳治郎 信使総代</p>	<p>日蓮宗本山 要法寺</p> <p>〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八 電話 〇七五(七七)二二三三 九九〇</p> <p>賞 首 嘉儀日有 関居 原日認 本山執事 住友顕一 本山執事 今村要道 本山執事 丹治義順</p>	<p>本門法華宗大本山 妙蓮寺</p> <p>〒602 京都市上京区寺之内通大宮東入妙蓮寺前町八五 電話 〇七五(四五)一三三二 五二一七</p> <p>賞 首 佐野日記 執事 長 尾崎日愆</p>	<p>法華宗(真門流)総本山 本隆寺</p> <p>〒602 京都市上京区智恵光院通り五上ル紋屋町三三〇 電話 〇七五(四四)一五七六 二</p> <p>賞 主 林日圓 執事 長 上田浩岳 執事 小島玄城 執事 岩崎峻暉 執事 補 笹木研秀</p>
<p>日蓮宗大本山 北山本門寺</p> <p>〒418-01 静岡県富士宮市北山重須 電話 〇五四四(五八)一〇〇四</p> <p>賞 首 片山日幹 執事 長 田中慈潮 執事 本間正晃</p>	<p>日蓮大聖人御靈跡 日蓮宗大本山 本圀寺</p> <p>勅諭にて京都に移遷の松葉ヶ谷草庵の靈跡</p> <p>〒607 京都府京都市山科区御陵大岩町六 電話 〇七五(五九)三九一九一</p> <p>賞 首 水谷日諦 執事 長 玉田学雄</p>	<p>日蓮宗大本山 妙顕寺</p> <p>久遠成院日親上人御靈窟</p> <p>〒602 京都府京都市上京区寺之内堀川東入 電話 〇七五(四一)四〇八〇八</p> <p>賞 首 沖日亨 執事 長 山田一光 執事 原光司 執事 補 多田妙鳳</p>	<p>立教開宗之靈地 日蓮宗大本山 清澄寺</p> <p>別当 塩田義朗</p> <p>〒299-55 千葉県安房郡天津小湊町清澄 電話 〇四七〇(九四)〇五二二五</p>
<p>日蓮宗本山 頂妙寺</p> <p>〒606 京都府京都市左京区仁王門通川端東入大衛町九六 電話 〇七五(七七)二〇五六二</p> <p>賞 首 金子光瑩 執事 補 藤井照源 執事 川合陽雄 執事 二之部孝祐 東京執事 田村宏周 参事 土屋智清 同 新井智修 同 山田完修</p>	<p>日蓮宗本山 立本寺</p> <p>公元一九九一年御開山日像菩薩 第六百五十年遠忌奉修</p> <p>〒602 京都府京都市上京区北野一番町一〇七 電話 〇七五(四六)六五一六一</p> <p>賞 首 細井日苑</p>	<p>日蓮宗本山 本法寺</p> <p>重文涅槃図長谷川等伯筆 名勝巴の庭本阿弥光悦作</p> <p>〒602 京都府京都市上京区小川通寺ノ内上ル 電話 〇七五(四四)一七九九七</p> <p>賞 首 金山寛成</p>	<p>日蓮宗大本山 法華経寺</p> <p>賞 首 長瀬貫公 参事 関観康 同 小倉俊明 同 新井智清 同 植田観泰 同 植田観泰 同 廣野観順 〒272 千葉県市川市中山二丁目十一 電話 〇四七三(三四)三四三三</p>

シリーズ 門連の進路をさぐる 3

広宣流布の第一線に立て!



斎藤龍導 日蓮聖人門下連合会相談役 日蓮宗妙正寺住職

昭和三十八年十一月二十八日、門下各派代表が聖祖御廟所に参集し、門連結成の報告を奉行了。私はこの時ほど感激し捨身弘法の誓願を強く覚えたことはない。

大地を踏みしめ前進を

何事でも発足当初から思考通りにうまく進むものではない。必ず段階がある。

私は門連のあり方と成長を、初期(第一期)中期(第二期)後期(円満結成第三期)の三段に分けて考えている。末法万年の広宣流布をめざして。

第一期は産みの苦しみを経て誕生し結成された今日の門連である。時代はずべて青年期に入っている。何時迄も有志または特殊な人々のみの集りや懇話、懇談の状態では実のある成長発展は難しいと思う。

即ち、今日現在では、もう中期第二期の時代に入ってきたと思う。そしてこの中期において一大飛躍をとげなければ、産み落した赤子を養育出来ない親となる誇りをまねがれない。

門連の終極大目的は、門下連合会規約の「目的と事業」に明示されているように、四海帰妙を顕現すること、この一事である。

檀信徒を打って一丸となし、檀信徒による唱題の大道進があってこそ祖願が成就され、この事はやがて立正安国・世界平和・楽土建設のための全人類の願望につながることもある。

これなくしては、題目の精神は失なわれるのではあるまいか、第一期の土台より、もう時は第二期に入っている。

第二期構成に入れ

現在、門連各派で考えていることは、全国に各派の支部(地方門連)組織を作ることではあるまいか。

すでにその第一矢として早くから京都地方門連が昭和五十三年に加盟している。そして活発な活動が展開されていることは周知のところ。



日蓮聖人門下連合会祖廟参詣・理事会 昭和62年6月10日

- 報告・承認・決定事項
1. 昭和六十一年度会務報告
2. 昭和六十一年度決算報告
3. 昭和六十二年予算案の件
4. 地方門連結成準備に

Table with financial data: 収入(繰越金一、五〇九、一三四), 支出(理事會費三〇〇、〇〇〇), 総計(三、七三九、一三四)

地方門連結成準備 担当委員決まる!!

昭和六十二年度・身延理事会開かる

昭和六十二年六月十日、午前十一時より本年度の日蓮聖人門下連合会身延参詣・理事会が開催された。

公理事長導師にて法味言上、各派代表焼香、その後大本堂にて法味言上宝物館参観、祖師堂、御真骨堂巡拝水鳴樓にて岩間法主の御挨拶を受けて、新書院にて昼食。

右については、大橋常任理事、藤井理事、吉田常任理事より発言あり京都理事會以来懸案の福井、大阪、北海道など地方門下組織との連携推進をはかるため、

各派の檀信徒を常時動員し、唱題読誦の聖なる声を世界のすみずみまで広め、そして全人類が入信する暁まで死身弘法の精進に邁進しなければならぬ。

この一事は各派代表参列者の感激であつたろうし、これ正しく第三期に入ったような感すら覚えたのである。

要は名目から実質へ、そして結実への暁を待望するのみである。

名目から実質へ

過日五月二十三日、比叡山開創一三〇〇年の記念法要に当り、昨年十一月六日天台宗よりの要請に、門連として対処方が協議され、門連各派信徒一五〇〇人と共に参列した。

十界本尊曼荼羅と日蓮聖人尊像が安置された根本中堂は題目で塗り変えられた感すらしたのである。

京都十六本山と横川定光院巡拝 日蓮聖人をめぐる京の旅
●2名様からお申し込みができます。
●JR列車を往復で201km以上ご利用になると、乗車券が2割引になります。
●宿泊は法華クラブ京都店を利用します。
●団体(15名以上)のお申し込みには、JR列車の乗車券・料金など各種割引が適用になります。

パゴダの国ビルマへの旅
世界最大の規模を誇るビルマの歴史と伝説とを秘めた大仏教の遺跡で、まさに仏教芸術の宝庫という言葉そのもののパガン
●旅行費用 358,000円
●出発日 62年9月25日(金)・10月9日(金)・10月23日(金)・10月30日(金)
●概略行程 (旅行期間7泊8日)
東京~バンコック(泊)~ラングーン(泊)~バガン(二泊)~ラングーン(二泊)~バンコック(泊)~東京

各派・教団 短信



本門佛立宗

◆現講有・佛立第18世本山有清寺50世住職西村日地上人は、法寿72歳をもち、去る5月4日遷化あそばされた。故日地上人の宗門葬は、8月10日に京都西陣の本山有清寺において行われる。

◆第119回臨時宗会が、7月10日・11日の両日開かれた。席上、次期本山住職推戴選挙が行われ、第51世本山住職・佛立第19世講有住に、京都誕生寺住職梶本日齋師が推戴された。講有晋山式は8月1日。

◆佛立宗恒例の海外弘通巡教が、去る6月18日より23日まで、ハワイ別院にて、7月14日から28日まで、ブラジル各寺院へ、団参が行われた。ハワイ別院には163名、ブラジルには68名が参詣した。特にブラジルに於ては、日本に先がけて「佛立開導日蓮聖人百回御遠諱」の総修が、19日にサンパウロの最大級ホテル・アソニヤンビーを会場として、全ブラジル代表三千名が会場をうめつくして盛大に総修法要を営んだ。

◆開導百遠諱記念事業の出版として旺文社より「現代のこころ・本門佛立宗」と、宗門弘通局より「現代宗教はやわかり」が発刊され、宗内外より好評を博している。(深沢泉)

◆1月10日宗務院御用始
◆1月13日、身延山久遠寺御頭講会。
◆2月18日、日蓮宗本山会目黒雅叙園「本山めぐり」の復刊、片山日幹師の仏教伝道功労賞受賞祝賀会発起などを決定。
◆3月10日・13日、定期宗会開催

◆5月14日、於ホテルパシフィック、日蓮宗新聞一〇〇号記念感謝の夕べ、宗内外四〇〇名出席。記念出版「歴代宗務総長施政方針演説集」刊行。尚新聞縮刷版も近々刊行予定。
◆5月20日、大本山法華経寺飯入山式、新貫首瀬瀬貴公師。
◆5月26日、於札幌法華クラブ、全国檀信徒協議会開催。
◆6月1日、於真間山弘法寺、布教研修所入所式。研修生四名。
◆6月11日・12日、於青森蓮華寺、全国布教師連合会代表者会議開催。お題目総弘通運動の実施計画徹底。特に管区輪番信行会の推進など討議。
◆6月20日、於中山法華経寺、渡部日皓師本葬儀執行。
◆6月20日・21日、於池之端法華クラブ、第十六回日蓮宗保育指導者(主任)研修会開催。
◆6月24日、於札幌経王寺、日蓮宗全国社会教化事業協会連合会代表者会議開催。基本テーマ「お題目総弘通運動への取り組み」——青少年教化実践のための家庭児童相談室事業の推進——。

◆(予定)◇日米青少年交流アメリカ研修旅行、7月25日〜8月11日まで、ルイスアンドクラーク大学、北米開教庁、ハワイ開教庁を主会場として開催。参加—中学二年以上大学生約三十名、研修内容—英語学習、各種講義、日曜礼拝、文化財見学、英語による仏教講義、米国家庭訪問、キャンプなど。
◆8月29日、於池上本門寺、日蓮宗初代管長文明院新居日蓮上人百遠諱忌宗門法要奉行。
◆9月16日・18日、於京都本門寺、久遠成院日親上人第五百遠諱法要奉行。17日、宗門法要。伝道布教を展覧。
◆東京・近頃の若い婦人が集い、ブリッジサークルを発足、毎月勉強会開催。
◆「真世界運動」展開中、各地で集い、研究会、講習会等を開催。月刊「真世界」誌普及運動も同時進行中。
◆2月7日・8日、身延祖廟輪番給仕を国柱有志により奉行した。
◆2月11日、札幌市共済ビルホールで開催された第10回建国記念式典で田中香浦会長は「日本の心」と題して記念講演をおこなった。
◆3月8日、国柱会本部にて、高松宮宣仁親王殿下尊儀奉引法要が厳修された。式後、田中会長より講話。高松宮殿下御成婚にあたり徳川実枝子刀自(高松宮妃殿下御母堂)の発願により田中智学者「仏教夫婦論」が各皇族方に献上されたエピソードなどが述べられた。
◆3月21・22日、国柱会本部で御修業練習儀典研修会開催。会期中、式士任用試験を実施。
◆4月28・29日、第57回国柱会身延登詣団。28日、身延祖廟前立正会慶讃式典。久遠寺諸堂参観。29日、思親閣登詣山頂で天長節奉祝式典。両日にわたり団長より記念講演。
◆5月3・5日、国柱会本部で「教を学ぶついで」開催。今期中、講師補任用試験実施。(秋場善弥)
◆5月26日・27日の「顕本法華宗」二日間をわたり、僧員講習会が総本山妙満寺を会場に開催された。
◆今年、教務部、布教部合同企画による講習会で、教学研究所所長古瀬聖徳師の「日什大正師の精神」と題した講話をはじめ、教学研究員二名の「寺院活動と祖先崇拝の諸問題」「本迹対論用意抄の考察」といったテーマによる研究発表がなされ参加員にとって有意義な講習会であった。(朝倉俊幸)

◆去る昭和六十一年十月、宗法にもついで宗会議員の改選が行われ、次の通り決定された。
宗会議長 札幌市日泰寺安井勝仁師
副議長 東大阪市照照寺田完英
議員 奈良県寛照寺辻本寛孝
同 和歌山県妙宣寺舟橋研昭
同 福井県蓮成寺中西順英
同 福井県田中寺齊藤隆彦
同 兵庫県妙法寺竹内正道
同 兵庫県妙法寺上嶋智岳
同 姫路市芳蓮寺水野智啓
同 小樽市妙源寺林 勝彦
◆宗門全教師を対象に第三回教学講習会が六月十九日午前十一時より、総本山本門寺において開催された。当日は午前午後の部とも、管長林日圓親下を講師に請じ、講題「図形本尊」を解説され、教師の資質向上を期して行われる。なお、当日正午、過年度遷化各上人の回向法要を参加全教師により厳修された。(吉田勝秀)

◆三宗統合学院 学生講座開催される。6月27・28・29日の3日間にわたり、法華宗陣門流宗務院内陣門講堂を会場に、三宗統合学院学生講座が開催された。
この統合学院は、毎年前後期2回開講され、三宗の青年僧を対象にした教学講習育成の場で、本年も三宗から多数の青年、学生僧が参加し、講師として法華宗真門流、宗務参事吉田勝秀上人が出席され、「開目抄」の素読と解釈を中心に、講義をされた。
◆6月23・24日、昭和62年度、三宗統合協議会(顕本・陣門流・真門流)が当宗当番宗のもと、箱根湯本「天成園」を会場に開催。協議事項は一、統合学院学生講座に関する件、二、聖訓カレンダー発行に関する件、三、日蓮門下連合会に関する件、四、統合協議会海外視察に関する件等以上である。(江坂隆俊)

◆今年三月の宗会において、任期満了にともなう次期管長の推戴選出が行われ、佐野日親親下が新管長に推戴され三月二十六日就任されました。退任された永井日輝親下には三期十二年に亘り管長職をつとめられ、多大な功績を残されたことに対して名譽管長に推戴されました。
◆昭和56年「観心本尊抄講義」心本尊抄講義・上巻」が出版されて以来、六年間を費やし、このたびその下巻が上梓された。
日蓮聖人が、その副状に「此事當身の大事なり」と仰せられた「本尊抄」の講義は、故株橋日浦先生(元法華宗興隆学林長)畢生の大著で、著者が昭和59年、本書下巻を執筆中に遷化され、その後は大平宏龍学林教授・株橋祐史学林講師を中心に編集がすすめられた。付録には、先生の講話・論文が収載され、巻末の索引と併せ先生の生前からの指示によるものであり、その目次も御自身で決定されていたものである。
◆海外布教の拠点のひとつであるアメリカ・サンフランシスコの法華宗仏教会が、現在の地に開堂して20周年を迎え、その記念法要が、10月4日奉修される。日本からは、管長赤田日崇本能寺貫首はじめ各大本山貫首、また松井宗務総長ほか内局部長総出仕のもと、団体参詣旅行が企画され、僧俗約60名が二コースに分かれて訪米する。(矢吹慈英)

田中智学自伝 全10巻 田中智学者 三二〇〇〇円
日本國體の研究 田中智学者 八〇〇〇円
日蓮聖人の宗教 田中智学者 九八〇円
これからの世界・人間 田中智学者 一三〇〇円
田中智学(評伝) 田中智学者 一四〇〇円
日蓮主義の研究 田中智学者 二〇〇〇円
日蓮聖人(小説) 西川 満著 一三〇〇円
私たちの法華経 田中智学者 八八〇円
▲新刊▼
宗教・教義・人生・生活・社会について108の質問に解答する
正しい宗教Q&A 田中智学者 一三〇〇円
▼宗教時代の到来「ほんとうの宗教」二編からなる入門書
日蓮主義ABC 田中智学者 六五〇円
▼木像を以て正式の本尊を造立することは出来ないことを論ず
本尊造立私議 田中智学者 一五〇〇円
(展転社・発行 真世界社・取次)
日蓮主義研究(第11号) 師子王文庫編 八〇〇円
仏教の現代的理解の問題・田中香浦/日蓮聖人の本尊と安心に就いて・片山日幹/「立正安国論」と「ユートピア」・村野宣忠/興尊の精神と思想・伊藤瑞敏
宗教法人 出版部
国柱会 真世界社
東京都江戸川区一之江6-19-18
〒124 0(0)0606-7111
郵便振替 東京01-9556

◆第四号をお届けする三号新聞をのりこえて発展するのみに。*それにしても叔山は雨にたたられた。叔山側の挨拶で「開闢以来の嵐」と言われたが、雨の原因を追求してみたくもなる。濁れる密教化か。
*しかし、報恩法要は素晴らしい。伝教大師への報恩法要がこうして出来た。次は宗祖への門下合同の報恩法要にこのエネルギーを。
*法華宗陣門流本山本成寺は、新潟県に所在する。訪れる機会には、本紙を参詣の案内にしたいだけ幸いである。
*門連の進路は、相談役の齋藤龍導師にご登場願った。師のご提案ごもつとも、理事会でもとりあげていただける内容。